

こそだて通信

2013年3月号

==山笑ふ==

寒さも日に日に緩み始めました。もう春もそこまで来ていますね。

私の故郷、松山出身の正岡子規の句に、『故郷やどちらを見ても山笑ふ』というものがあります。この句の季語は『山笑ふ』。木々が芽吹く様子を表現した季語ですが、寒い冬を越えてやっと訪れた春の喜びを、先人はこのように表現したのですね。

寒い冬の間、眠っているように見える木々の中では、春に向けての準備が進められ、目には見えなくても、芽吹くその日に向けて内側にエネルギーをためています。

子どもの成長も同じです。芽が出そうな気配が感じられないと、「どうして芽が出ないんだろう」「もう芽は出ないんじゃないか」と親はヤキモキしたり不安になったりするでしょうが、お子さんにも必ず芽吹くその時が訪れますから大丈夫です。しかし、エネルギーのたまるまでにはそれぞれの子どもの速度があり、それは必ずしも親の希望する速度ではありません。

親として一番大切なことは、不安な気持ちがありながらもぐっと踏ん張って、その日を待つということです。手をかけ言葉をかけ何かをしてあげることよりも、待つことは苦しい作業かもしれません。

けれど、あきらめではなく押しつけでもなく、「わが子にもいつかその時が来る」という信頼とともにお子さんを見守ることは、きっと新しい環境でのお子さんの支えとなり、これからの成長を助けることでしょう。

お子さんの山笑う日を楽しみに、日々の喜びとともに、この新しい春を味わっていただければと思います。 (臨床心理士 藤井あづさ)